

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)  
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Association between periconceptional diet quality and hypertensive disorders of pregnancy: the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

妊娠前からの母親の食事の質と妊娠高血圧症候群発症との関連: エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: コアセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: JAHA: Journal of the American Heart Association

年: 2024 DOI: 10.1161/JAHA.123.033702

筆頭著者名: 大久保 公美

所属 UC 名: コアセンター

目的:

一般成人向けに推奨されている健康的な食事が、妊娠高血圧症候群の予防にも関連しているかどうかは、これまで十分にわかっていません。本研究では、一般成人向けの食事ガイドラインに基づいて評価した妊娠前からの食事の質と妊娠高血圧症候群発症との関連を明らかにすることを目的としました。

方法:

重複登録および循環器疾患、糖尿病、高血圧、腎疾患の既往歴のない単胎妊娠女性のうち妊娠前の食事および産科・分娩合併症のデータを有する 81,113 名を解析対象としました。食事の質は、食事バランスガイドをもとに算出した食事バランススコアと高血圧の治療・管理を目的とした Dietary Approaches to Stop Hypertension (DASH) 食スコアの 2 種類で評価しました。対象者をそれぞれの食事の質スコアに基づいて 5 つのグループに分け、交絡要因を調整した後、ベイズロジスティック回帰分析を用いて食事の質と妊娠高血圧症候群発症リスクとの関連を調べました。

結果:

対象者のうち 2,383 人 (2.9%) の女性が妊娠高血圧症候群を発症していました。食事バランススコアおよび DASH 食スコアともに、食事の質スコアが高くなるほど妊娠高血圧症候群の発症リスクが低くなりました。

考察(研究の限界を含める):

今回の結果から、日本の食事ガイドラインに加えて、アメリカで策定され、世界中で広く使用されている「DASH 食」も、日本人妊娠女性の妊娠高血圧症候群の発症を抑える可能性が示されました。具体的には、野菜、果物、全粒穀物、豆類、魚、低脂肪乳製品を多く摂取し、肉類や砂糖入り飲料の摂取を控えた健康的な食事を妊娠前から取り入れることで、妊娠高血圧症候群の予防に役立つ可能性が高いことがわかりました。

結論:

妊娠前からの食事の質の高さが、妊娠高血圧症候群の発症リスクを下げる可能性が示唆されました。